

2-5. 有識者への意見聴取

取組み方針①：合意形成活動の実施に関する提言・助言などをいただき、若手の会、NB ミーティング両組織にフィードバックさせることで、着実な合意形成活動に繋げていく。

(1) 有識者への意見聴取

1) 開催概要

平成 26 年度から継続して懇話会を開催していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、今年度は意見聴取の形で計 2 回実施した。

第 1 回では今年度の取組み内容、土地活用意向調査の実施にあたっての留意事項について意見をいただき、第 2 回では意向醸成に係る今後の取組みに向けた方向性について意見をいただいた。

なお、意見聴取を行う有識者は、これまで懇話会の正副会長を務められた、石原昌家氏（沖縄国際大学名誉教授）、上江洲純子氏（沖縄国際大学教授）とした。

2) 第1回実施概要及び議事要旨

○実施概要

①日 時 : 令和3年9月28日(火) 15時00分～16時10分

②会 場 : 宜野湾市役所別館3階建設部会議室(オンライン併用)

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 教授(オンライン)

《事務局》

東江 信治 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長
高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課
石井、池村(昭和株式会社)

④次 第 : 1. 令和3年度の取組みについて
2. 土地活用意向調査の実施について
3. その他お気づきの点など

⑤配布資料 : ・令和3年度 第1回有識者への意見聴取 次第
・資料①: 令和3年度の取組みについて
・資料②: 土地活用意向調査について
・資料③: 普天間飛行場跡地利用に関するアンケート調査資料一式
・資料④: お伺いしたい事項

○意見概要

		(1) 地権者意見交換会について（対話形式の開催が難しい場合の、アンケート以外の手法）
石原	原	自動音声通話を用いて電話による世論調査を実施する場合も多く、回答もしやすいと感じる。自動音声システムを活用した電話によるアンケートの実施もよいのではないかな。
事務局	局	予算の範囲内で実施するため、今年度の実施は難しい。今後の実施にあたって参考としたい。
上江洲	洲	アンケートによる意見聴取を行う場合、チャットボットのような会話形式で行うことは可能か。携帯電話やパソコンの画面上で、簡単な選択肢と回答のパターン化や、資料が確認できる仕組み等があればよいのではないかな。また、オンラインで参加することが難しい地権者の場合、URL や QR コードを活用し、地権者からの意見を Google フォーム等で回収してはどうか。
事務局	局	チャットボットは、技術的な問題もあるため確認したい。Google フォームについては、事務局内で検討したい。
		(2) 市内小中高等学校において児童・生徒へ向けた出前講座について
石原	原	プロモーションビデオを視聴した感想としては、アニメーションが活用されていてなじみやすいと感じた。学校のホームルームや給食時間に視聴することが可能ではないかな。また、子どもたちの意見を取り入れてプロモーションビデオをバージョンアップしてもよいのではないかな。自身の意見が取り入れられたことで、より普天間飛行場返還後のまちづくりに興味が出てくるのではないかな。
上江洲	洲	オンラインを活用したグループセッションも可能である。ディスカッションで得た意見については、投票機能を用いて結果を可視化するとよいのではないかな。ZOOMや Teams 等のアプリは、参加者全員が資料の画面共有を行えるため、グループワークも可能である。
事務局	局	高校生については、スマートフォンを活用し授業を行う学校も増えている。小・中学生については学校の授業で使用するため、一人一台のパソコン（タブレット）が配布されている場合もあり、学校と市役所をオンラインで繋ぎ開催すれば、小・中学生とのグループワークは可能と考える。
事務局	局	学校側からの申込み状況も含めて、事務局で開催方法について検討する。
		(3) 土地活用意向調査の実施について

石原 (沖縄国際大学名誉教授)	配布する封筒には「孫や家族のためにこのアンケートを実施しています。今後の将来に関わる大事なアンケートです。」というように、興味を持つような文言を記載することで重要なアンケートであることを地権者も認識し、回収率も上がるのではないかと。
事務局	記載する文言については検討したい。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	事務局の説明で、WEB の回答とハガキでの回答が重複する懸念があるとの話があったが、注意書きを記載することで二重回答の回避につながると考えられる。 また、アンケートの回収方法は郵送以外でも可能か。投函ではなく、公共施設等にアンケートの回収箱を設置することで、地権者側も投函しやすいのではないかと。
事務局	検討したい。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	ハガキによる回答は個人情報の漏洩や個人が特定されることを懸念する地権者も多いため、個人が特定されないと分かるよう記載する方がよい。また、回答を見えないように工夫する方が、回答率も上がると考えられる。
事務局	仮に地権者意見交換会が実施できない場合、アンケートの実施も検討している。しかし、今年度は土地活用調査アンケートを実施するため、2種類のアンケートを実施することとなり地権者の負担が大きくなる。そのため、権者意見交換会の代わりにアンケートを実施する場合は、WEB による回答で対応できればと考えているところである。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	アンケート調査を行う際に「WEB でも回答を受け付けています」という文面を入れてもよいのではないかと。ハガキで回答する方に対しては簡単に回答ができるようにして、WEB では自由意見の記入が可能と分かるように案内文や別紙に記載するとよいのではないかと。
事務局	検討したい。
	(4) その他
上江洲 (沖縄国際大学教授)	第1回まちづくり講座の動画配信は、期間限定で配信すると伺っているが現在も視聴可能か。また、視聴者を限定したオンデマンド配信の場合は視聴期限を設けなくてもよいのではないかと。大学の講座も、オンデマンド配信の形式で実施している。 動画配信については今後も変わらずニーズがあると考えられるため、今後のコンテンツとして活かせるのではないかと。

事	務	局	第1回まちづくり講座の視聴期間については、期間を延長し対応したい。 また、第2回まちづくり講座の動画配信を10月頃に予定しており、後日案内したい。
---	---	---	--

3) 第2回実施概要及び議事要旨

○実施概要

①日 時 : 令和3年2月24日(木) 16時00分～17時15分

②会 場 : 昭和株式会社沖縄支社(オンライン併用)

③出席者 : 石原 昌家 沖縄国際大学 名誉教授
(敬称略) 上江洲 純子 沖縄国際大学 教授(オンライン)

《事務局》

東江 信治 宜野湾市基地政策部まち未来課 係長(オンライン)

高良 夏美 宜野湾市基地政策部まち未来課(オンライン)

石井、崎山(昭和株式会社)

④次 第 : 1. 令和3年度活動紹介
2. 意向醸成に関する今後の取組みに向けて(NB ミーティング)
3. その他お気づきの点など

⑤配布資料 : ・令和3年度 第2回有識者への意見聴取 次第
・資料①: 令和3年度活動報告の取組みについて
・資料②: 意向醸成に関する今後の取組みに向けて(NB ミーティング)
・参考①: 有識者への意見聴取(第1回)議事要旨

○意見概要

	(1) 意向醸成に関する今後の取組みに向けて (NB ミーティング)
事務局	(環境問題について NB ミーティングで検討したいという意見があがっているが) NB ミーティングでは、跡地利用計画について意見交換を行っているため、環境問題に関しては返還後にその様な問題があれば、(米軍起因のものについては) 国の責任においてしっかり対応されると説明している。しかし、一部の参加者から、(返還時期が明確に示されない中で) 今出来る事として対策をしなければ、まちづくりはできないという意見があり、話が堂々巡りの中次第に定例会への参加者が少なくなっているのが現状である。また、定例会を毎月行う必要はないのではと意見があり、次年度の検討テーマもなかなか決まらないため、跡地利用計画の中間取りまとめ(第2回)が策定・公表された段階で内容について詳しく説明をし、それに対する意見聴取を実施する事を検討している。また、商工会や青年会、婦人会等の市内の組織へ情報発信・意見聴取を行い、次年度は NB ミーティング以外の組織を回る事も必要ではないかと考えている。
石原 (沖縄国際大学名誉教授)	環境問題に関しては新聞等で報道されているため、気になると言う意見は理解できる。市としては、環境問題に関しては別の場で話し合い、解決していくと、環境問題は解決したものとして NB ミーティングでは跡地利用計画を考えていくと言う事で、その考えをしっかりと伝えて、本来の跡地利用計画に関する話を進めていくと言う事を浸透していく必要がある。
事務局	石原先生のおっしゃる通り、市からもしっかりと説明はしているが、話が堂々巡りになっている。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	それは、一人の方の意見なのか。もしくは他の参加者達も同じ話になっていくため、本来進めるべき議論が進まず、話し合いが出来ないと言う事か。
事務局	その通りである。 環境問題に対する意見が出てくる事は必然であると考えするため、県の環境政策課主催の環境問題に対するリスクコミュニケーションの勉強会へ NB ミーティングも参加を予定している。ある程度の知識を習得しながら、跡地利用計画の観点で課題を解決していくためのご意見を頂きたいと伝えている。
上江洲 (沖縄国際大学教授)	課題に対する提案が難しい。NB ミーティングの活動がなかなか活性化していない現状についての意見でもよいか。
事務局	そういった形でご意見をうかがいたい。

上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	新型コロナウイルス感染症の影響で、「まち歩き」が出来なかったのも、そこに立ち返ると良いのではないかと。定期的に集まる必要もないのではないかという意見が会員からも出ていたが、オンラインも個々で活用出来る環境が整ってきているのであれば、全くその通りだと考える。年度内に一つ大きな目標を用意しそこに向けていつから始動していくか、具体的に何をするかなど、逆算して考えていく方が達成感を持ち、次につながるのではないかと。「まち歩き」も本来、その地域が今抱えている課題を抽出した方が、今後のまちづくりにもつながる。次年度は、他の組織にもアプローチしていくと話されていたが、それを NB ミーティングが行う形式も取れるのではないかと。NB ミーティングの小さな規模では難しいが、小中高、大学などと連携する企画的な事を、1～2 回入れるだけでもモチベーションが変わるのではないかと。
石 原 (沖縄国際大学名誉教授)	最近、FM 宜野湾へ出演する機会があり、放送局の窓から西普天間住宅地区跡地利用計画の工事現場を目の当たりにした。実際に現場に足を運ぶことで、何かアイデアなどが浮かんでくるのではないかと感じた。
事 務 局	NB ミーティングの「まち歩き」の中で、西普天間住宅地区跡地に入らせてもらった事があるが、開発が実際に始まってからは見ていないので、県内の事例として、NB ミーティングの活動の中で、今後開発動向を見に行くという事も検討できると思う。前回の定例会の中で、支障除去と環境アセスメント調査について、簡単な説明を行ったが、それに対して、「開発前ではなく米軍が使用している中で汚染が判明すれば、それは米軍の中で除去すべきではないか」と意見されており、事務局として伝えたい事とずれが生じている。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	その方以外の参加者は何と言っているのか。
事 務 局	他の参加者は「まち歩き」を行いたいと話していたが、今は定例会に参加しなくなっており、定例会の参加者もその方ともう一人のみとなっている。このように議論が停滞気味になっている経緯から、市内の各組織（商工会や青年会等）に対して広く情報発信をしてみてもどうかと事務局として考えている。
上 江 洲 (沖縄国際大学教授)	リスクコミュニケーションについての勉強会に出席した事がある。基地の跡地利用に関わらず、基地で何か起こった際にどうやって住民に周知していくのか、県も市ももちろんすでに検討をしている。先程事務局の方で話されていた様な、活動を停止する形で、意見聴取の母体の一つとして NB ミーティングには参画していただいて、NB ミーティングへ参加しなくなってしまったメンバーを呼び戻し、他の組織にもヒアリング等を行ってみ

		てはどうか。環境問題を重視されている方には、ご自身で調査する、若しくはチーム、部会を立ち上げていただき、年度末で報告する機会を設け、これからも継続参加していただく形でもいいのでは。
石	原	上江洲氏の意見はとても建設的で良いのではないかと。意見の違いがあっても取り入れるスタンスも重要だと考える。また、NB ミーティングの前会長はものすごく多彩な意見が出てくるため、個別に意見を求めていく事も必要ではないか。是非検討していただきたい。
（沖縄国際大学名誉教授）		
事務局		必要に応じて意見を伺う事はできるのではないかと考えている。上江洲先生の話の中であった、部会形式を事務局として検討してみたいと考えたが、環境問題に特化し過ぎてしまいなかなか本来の NB ミーティングとしての活動ができなくなる懸念もある。
石	原	部会の意見を全て取り入れる訳ではなく、部会の意見は意見として出してもらい、NB ミーティングとは別の部署としての位置付けでいいのではないかと。
（沖縄国際大学名誉教授）		
事務局		NB ミーティングへ参加しなくなってしまったメンバーの呼び戻しと、他の組織への呼びかけ等、（NB ミーティングの次年度以降の活動に関する）事務局としての考えについて、上江洲先生としても（事務局と）同じ意見と認識しているが相違ないか。
上	江	同じ意見と考える。
（沖縄国際大学教授）		（部会を設けて、環境問題について検討してもらう提案について）もし部会を結成するとなった場合に、環境問題に取り組みたいと考えている方は多いのか。何故そのような事を聞くかと言うと、NB ミーティングへの入会・退会は本人の意思に任されており、本来の活動趣旨とずれた方がいた場合でも、そのような規約が無いため強制退会は出来ない。規約の見直しを行うことや、今回はご本人が退会の意思を示されていないのであれば、部会として個人的に活動をしてもらい、報告の場を設け、全体で環境問題について話し合う事はしないと言うのはどうか。
事務局		お二人の意見を踏まえ、会則の考え、見直しを検討したい。
		（2）その他
石	原	地主会の方々の（跡地利用の検討に対する）意見はどのようにして集めているのか。
（沖縄国際大学名誉教授）		

事務局	地主会の皆さんの意見は、地権者意見交換会でうかがいたいと考えていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催ができず、地主会の評議員の皆さんには説明をし、一般の地権者向けにアンケート調査や資料配布を行い、情報提供をして周知している。なかなか直接意見聴取は出来ていないが、（県市主催の）普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ（第2回）検討委員会に、地主会の会長が委員として出席し、意見交換を行っている。
上江洲 （沖縄国際大学教授）	情報提供いただいた、まちづくり座談会の動画を視聴した。海外在住の講師とも繋がれるのは、オンラインならではのメリットだと思ったが、それがもう少し周知できればいいのかなと感じた。（動画配信を）周知した際、関心がある学生が多くいたが、実際の視聴者数に反映されていなかった。自発的に視聴を促すのではなく、強制的にこちら側から見せた方が良いのではと感じる位の内容だった。オンラインと併用して活動を進めていくのは良い事だと思う。オンラインでイベントが実現できれば、NB ミーティングや若手の会の企画の幅が広がるのではと感じた。高校、大学ではオンラインの環境は当たり前になっているので、次年度でもオンライン環境を活用した企画などが出来るのではと、活動報告を見て感じた。
事務局	確かに、オンラインのイベントをどうするかを考える時、なるべくハードルが低く参加しやすいイベントであれば、年代的にも比較的若くて時間にゆとりのある方だと、参加いただけそうだと感じる。具体的な内容など検討していきたい。また、今後の取組みとしてまちづくり講座も、次年度以降も行っていきたいと考えている。
事務局	本日いただいた意見を参考に今年度の取りまとめを行い、次年度に向けてどのように進めて行くか提案をいただいたため、そこも含めて検討し、次年度はこれまでと違った視点で進めていきたい。

5) 取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●次年度の取組みの方向性について

以下の内容に関する取組みの方向性や考え方について意見を伺う事ができ、若手の会及び NB ミーティングへのフィードバックを行った。

- ・土地活用意向調査の実施にあたっての留意事項
- ・NB ミーティングの活動の方向性

【今後の課題】

●継続した議論の必要性

- ・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。